



令和6年産も「需要に応じた米生産」と「水田フル活用」に取り組みましょう！

◎「需要に応じた米生産」



富山県の令和6年産米の主食用米の生産目標

①全国の生産量の目安669万トン（5年産米の生産量目安と同数量）、②富山県産米の需要見通し、在庫量や価格の動向等を考慮し、現行の生産力が維持されるよう、県段階の生産目標を**172,843トン、面積換算で31,600ha**として設定しました。

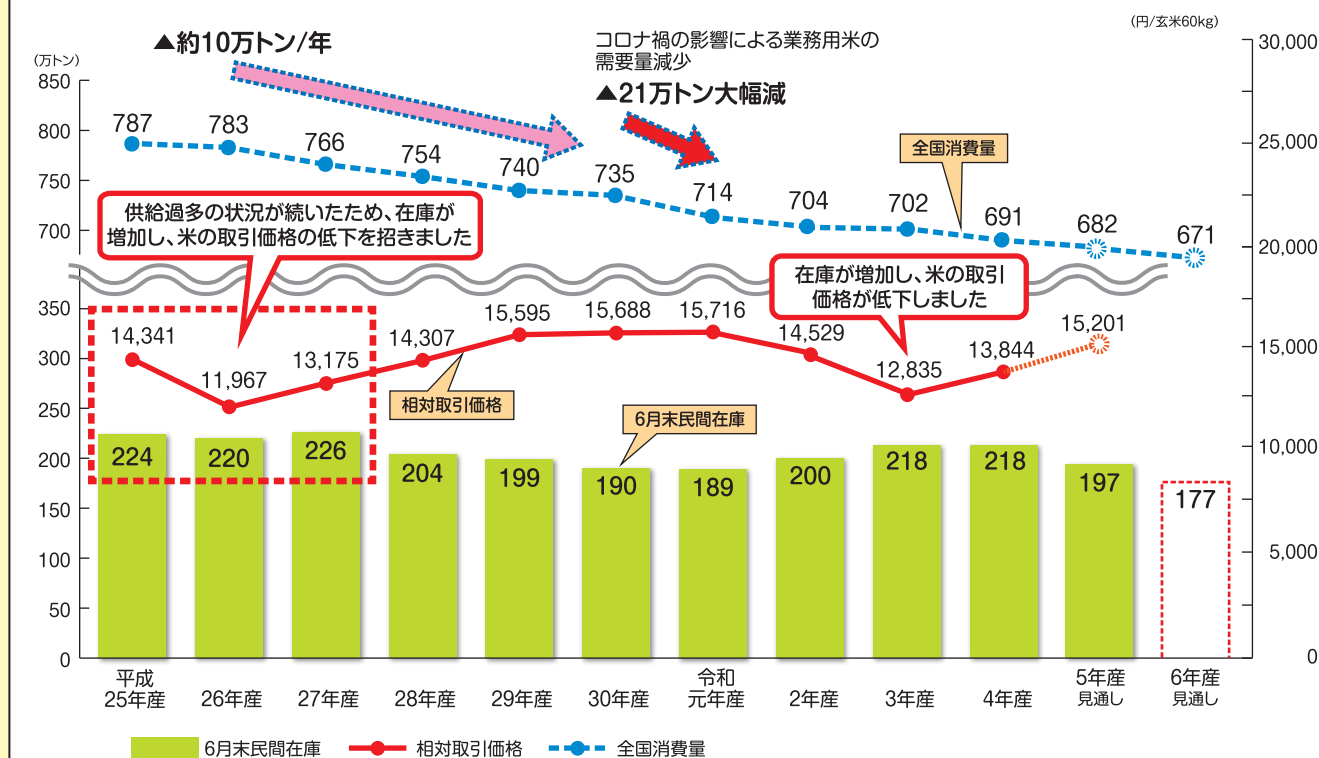
本県では、これまで生産目標に沿った作付けに取り組んできており、引き続き、県全域で継続して取り組みましょう。



全国の水づくりをとりまく状況

5年産では全国各産地において、計画的に作付転換に取り組まれ、目安に沿った生産量となったことから、全国の主食用米の需給環境は改善していく見通しです。しかし、人口減少や食の多様化により、主食用米の需要量は減少（約10万トン/年）しており、引き続き「需要に応じた米生産」が必要です。

【主食用米の消費量および米の相対取引価格・民間在庫の推移（全国状況）】



生産者、JA、行政等が一体となって「需要に応じた米生産」に取り組みましょう

◎「水田フル活用」による生産性・収益性の向上に取り組みましょう

- ①「米の生産目標」や、地域の「作物別の生産方針」を参考に、作付計画の検討や土地利用の調整を実施しましょう。
- ②経営所得安定対策等の国の制度も活用し、水田のフル活用に取り組みましょう。
- ③調整水田や大麦の収穫後の遊休農地等を積極的に有効活用しましょう。

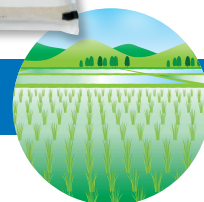


高品質で美味しい米づくり

令和5年産米は記録的な高温の影響等により、一等米比率が低下しました。

主食用・非主食用を含めた水稻作全般において、「富富富」等の高温耐性品種への切替えや高温への技術対策を進め、高温等の気象変動に打ち勝つ米づくりに取り組みましょう。

- 高温耐性品種「てんたかく」、「富富富」、「てんこもり」の作付拡大
→高温耐性品種の作付割合30%以上
- 高温登熟回避のためコシヒカリでは、5月15日を中心とした田植えの徹底
- こまめな水管理、的確な追加穂肥の施用による稲体活力の維持



国支援制度の見直しについて

●飼料用米への取組支援

国では、令和6年産から、一般品種（てんたかく、てんこもり等）による飼料用米に対する取組支援の単価水準を段階的に見直すこととしています。

生産条件や地域の実情を踏まえ、多収品種（やまだわら等）への切替えや、加工用米・備蓄米への転換などの対応を、計画的に進めましょう。

【飼料用米に対する戦略作物助成】

	令和6年産	令和7年産	令和8年産
一般品種 (てんたかく、てんこもり等)	数量に応じて 5.5～9.5万円/10a (標準単価:7.5万円/10a)	数量に応じて 5.5～8.5万円/10a (標準単価:7.0万円/10a)	数量に応じて 5.5～7.5万円/10a (標準単価:6.5万円/10a)
多収品種 (やまだわら等)	数量に応じて 5.5～10.5万円/10a (標準単価:8.0万円/10a) ※従来どおり		

●「水田活用の直接支払交付金」における交付対象水田

国の「水田活用の直接支払交付金」における交付対象水田の扱いが見直され、令和4～8年度に一度も水張り（水稻作付）が行われていない農地は、令和9年度以降交付対象水田から除外することとされました。

水田のフル活用に向け、関係機関とともに地域で協議を行い、制度見直しへの対応方法を検討しましょう。

対応の 方向性

◎水稻作付が可能な農地では、交付対象水田として継続できるよう、水稲作とのローテーションを実施しましょう。

※水稻作付が困難な農地では、湛水管理を1か月以上行い、連作障害による収量低下が発生していないことを示すことで、交付対象水田として継続することが可能です。

※将来にわたって継続的に畑作を行う場合は、畑地化や畑地化促進事業の活用もご検討ください。

※詳細は、お住まいの地域農業再生協議会（市町村・JA）へお問合せ下さい。